

気象庁震度階級関連解説表

使用にあたっての留意事項

- (1) 気象庁が発表している震度は、原則として地表や低層建物の一階に設置した震度計による観測値です。この資料は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が発生するかを示すもので、それぞれの震度に記述される現象から震度が決定されるものではありません。
- (2) 地震動は、地盤や地形に大きく影響されます。震度は震度計が置かれている地点での観測値であり、同じ市町村であっても場所によって震度が異なることがあります。また、中高層建物の上層階では一般に地表より揺れが強くなるなど、同じ建物の中でも、階や場所によって揺れの強さが異なります。
- (3) 震度が同じであっても、地震動の振幅（揺れの大きさ）、周期（揺れが繰り返す時の1回あたりの時間の長さ）及び継続時間などの違いや、対象となる建物や構造物の状態、地盤の状況により被害は異なります。
- (4) この資料では、ある震度が観測された際に発生する被害の中で、比較的多く見られるものを記述しており、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。また、それぞれの震度階級で示されている全ての現象が発生するわけではありません。
- (5) この資料は、主に近年発生した被害地震の事例から作成したものです。今後、5年程度で定期的に内容を点検し、新たな事例が得られたり、建物・構造物の耐震性の向上等によって実状と合わなくなった場合には変更します。
- (6) この資料では、被害などの量を概数で表せない場合に、一応の目安として、次の副詞・形容詞を用いています。

用語	意味
まれに	極めて少ない。めったにない。
わずか	数量・程度が非常に少ない。ほんの少し。
大半	半分以上。ほとんどよりは少ない。
ほとんど	全部ではないが、全部に近い。
が（も）ある、 が（も）いる	当該震度階級に特徴的に現れ始めることを表し、量的には多くはないがその数量・程度の概数を表現できかねる場合に使用。
多くなる	量的に表現できかねるが、下位の階級より多くなることを表す。
さらに多くなる	上記の「多くなる」と同じ意味。下位の階級で上記の「多くなる」が使われている場合に使用。

※ 気象庁では、アンケート調査などにより得られた震度を公表することがありますが、これらは「震度〇相当」と表現して、震度計の観測から得られる震度と区別しています。

●人の体感・行動、屋内の状況、屋外の状況

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	—	—
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	—	—
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	—
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5強	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

● 木造建物（住宅）の状況

震度 階級	木造建物(住宅)	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5弱	—	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
5強	—	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。 壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。 瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多くなる。 傾くものや、倒れるものが多くなる。
7	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。 まれに傾くことがある。	傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

(注 1) 木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和 56 年(1981 年)以前は耐震性が低く、昭和 57 年(1982 年)以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注 2) この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。

(注 3) 木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震のように、震度に比べ建物被害が少ない事例もある。

● 鉄筋コンクリート造建物の状況

震度 階級	鉄筋コンクリート造建物	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5強	—	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。
6弱	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。
6強	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや X 状のひび割れ・亀裂がみられることがある。 1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。
7	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂がさらに多くなる。 1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや X 状のひび割れ・亀裂が多くなる。 1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものが多くなる。

(注 1) 鉄筋コンクリート造建物では、建築年代の新しいものほど耐震性が高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和 57 年(1982 年)以降は耐震性が高い傾向がある。しかし、構造形式や平面的、立面的な耐震壁の配置により耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注 2) 鉄筋コンクリート造建物は、建物の主体構造に影響を受けていない場合でも、軽微なひび割れがみられることがある。

● 地盤・斜面等の状況

震度階級	地盤の状況	斜面等の状況
5弱	亀裂※ ¹ や液状化※ ² が生じることがある。	落石や崖崩れが発生することがある。
5強		
6弱	地割れが生じることがある。	崖崩れや地すべりが発生することがある。
6強	大きな地割れが生じることがある。	崖崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある※ ³ 。
7		

※¹ 亀裂は、地割れと同じ現象であるが、ここでは規模の小さい地割れを亀裂として表記している。

※² 地下水位が高い、ゆるい砂地盤では、液状化が発生することがある。液状化が進行すると、地面からの泥水の噴出や地盤沈下が起こり、堤防や岸壁が壊れる、下水管やマンホールが浮き上がる、建物の土台が傾いたり壊れたりするなどの被害が発生することがある。

※³ 大規模な地すべりや山体の崩壊等が発生した場合、地形等によっては天然ダムが形成されることがある。また、大量の崩壊土砂が土石流化することもある。

● ライフライン・インフラ等への影響

ガス供給の停止	安全装置のあるガスメーター（マイコンメーター）では震度5弱程度以上の揺れで遮断装置が作動し、ガスの供給を停止する。 さらに揺れが強い場合には、安全のため地域ブロック単位でガス供給が止まることもある※。
断水、停電の発生	震度5弱程度以上の揺れがあった地域では、断水、停電が発生することがある※。
鉄道の停止、高速道路の規制等	震度4程度以上の揺れがあった場合には、鉄道、高速道路などで、安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が、各事業者の判断によって行われる。（安全確認のための基準は、事業者や地域によって異なる。）
電話等通信の障害	地震災害の発生時、揺れの強い地域やその周辺の地域において、電話・インターネット等による安否確認、見舞い、問合せが増加し、電話等がつながりにくい状況（ふくそう）が起こることがある。 そのための対策として、震度6弱程度以上の揺れがあった地震などの災害の発生時に、通信事業者により災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などの提供が行われる。
エレベーターの停止	地震管制装置付きのエレベーターは、震度5弱程度以上の揺れがあった場合、安全のため自動停止する。運転再開には、安全確認などのため、時間がかかることがある。

※ 震度6強程度以上の揺れとなる地震があった場合には、広い地域で、ガス、水道、電気の供給が停止することがある。

● 大規模構造物への影響

<p>長周期地震動※による超高層ビルの揺れ</p>	<p>超高層ビルは固有周期が長いこと、固有周期が短い一般の鉄筋コンクリート造建物に比べて地震時に作用する力が相対的に小さくなる性質を持っている。しかし、長周期地震動に対しては、ゆっくりとした揺れが長く続き、揺れが大きい場合には、固定の弱いOA機器などが大きく移動し、人も固定しているものにつかまらなると、同じ場所にいられない状況となる可能性がある。</p>
<p>石油タンクのスロッシング</p>	<p>長周期地震動により石油タンクのスロッシング（タンク内溶液の液面が大きく揺れる現象）が発生し、石油がタンクから溢れ出たり、火災などが発生したりすることがある。</p>
<p>大規模空間を有する施設の天井等の破損、脱落</p>	<p>体育館、屋内プールなど大規模空間を有する施設では、建物の柱、壁など構造自体に大きな被害を生じない程度の地震動でも、天井等が大きく揺れたりして、破損、脱落することがある。</p>

※ 規模の大きな地震が発生した場合、長周期の地震波が発生し、震源から離れた遠方まで到達して、平野部では地盤の固有周期に応じて長周期の地震波が増幅され、継続時間も長くなる可能性がある。

主な既往地震災害

番号	西暦	日本暦	地域名又は震源名	北緯 東経	規模	被害摘要
1	869	貞観 11. 5. 26	三陸沿岸		M8. 3	城郭・倉庫・門櫓・垣壁など崩れ落ち倒潰するもの無数。津波が多賀城下を襲い溺死約1千。流光屋のごとく隠映すという。三陸沖の巨大地震とみられる。[4]
2	1611 12・2	慶長 16. 10. 28	三陸沿岸及び北海道東岸	39. 0° 144. 4°	M8. 1	三陸地方で強震。震害は軽く、津波の被害が大きかった。伊達領内で死 1783、南部・津軽で人馬の死3千余という。三陸沿岸で家屋の流出が多く、北海道東部でも溺死が多かった。1933 年の三陸地震津波に似ている。[4]
3	1616 9. 9	元和 2. 7. 28	仙 台	38. 1° 142. 0°	(M7)	仙台城の石壁・櫓等破損。江戸で有感。津波を伴う？
4	1646 6. 9	正保 3. 4. 26	陸前・岩代・下野	38. 1° 140. 65°	(M6. 5 ～6. 7)	仙台城・白石城で被害。会津で少々地割れ。日光東照宮で石垣など破損。江戸でもかなり強かった。
5	1668 8. 28	寛文 8. 7. 21	仙 台		(M5. 9)	仙台城の石垣崩れる。迫町で地割れ、家破損。江戸で有感。
6	1678 10. 2	延宝 6. 8. 17	陸中・出羽	39. 0° 142. 5°	(M7. 5)	花巻で城の石垣崩れ、家屋も損壊、死1。白石城の石垣崩れる。秋田・米沢で家屋に被害。
7	1717 5. 13	享保 2. 4. 3	仙台・花巻	38. 1/2° 142. 1/2°	(M7. 5)	仙台城の石垣崩れる。花巻で破損家屋多く、地割れや泥の噴出があった。津軽・角館・盛岡・江戸で有感。
8	1731 10. 7	享保 16. 9. 7	岩 代	38. 0° 140. 6°	(M6. 5)	桑折で家屋 300 余崩れ、橋84落ちる。白石城で被害。蔵王の高湯や仙台でも被害が多かったという。
9	1736 4. 30	元文 1. 3. 20	仙 台		(M6)	仙台で城の石畳や澁橋など破損。余目・江戸で有感。
10	1772 6. 3	安永 1. 5. 3	陸前・陸中	39. 35° 141. 9°	(M6 3/4)	遠野・宮古・大槌・沢内で落石や山崩れ、死 12。花巻城で所々破損、地割れあり。盛岡で家屋破損。江戸など有感。1987 年1月9日の 地震に似ており、海岸近くのやや深い地震の可能性がある。
11	1793 2. 17	寛政 5. 1. 7	陸前・陸中・磐城	38. 5° 144. 5°	(M8 ～ 8. 4)	仙台封内で家屋損壊1千余、死 12。沿岸に津波が来て、大槌・両石で流潰家 71、死9、気仙沼で流出家 300 余。余震が多かった。震央はもっと陸寄りの可能性もある。[2]
12	1835 7. 20	天保 6. 6. 25	仙 台	38. 5° 142. 5°	(M7)	仙台城で石垣崩れ、藩内で被害。岩手県藤沢町で石垣崩れ、蔵の壁を損じた。津波があったとされるが、疑問もある。[2]
13	1855 9. 13	安政 2. 8. 3	陸 前	38. 1° 142. 0°	(M7 1/4)	仙台で屋敷の石垣、堂寺の石塔・灯籠崩れる。山形県・岩手県南部・新潟県分水町・常陸太田で有感。
14	1861 10. 21	文久 1. 9. 18	陸中・陸前・磐城	38. 55° 141. 15°	M6. 4	陸前の遠田・志田・登米・桃生の各郡で特に被害が多く、潰家・死傷があった。江戸・新潟県分水町・長野まで有感。
15	1896 6・15	明治 29	三陸沖	39. 1/2° 144°	M8 1/4	「明治三陸地震津波」震害はない。津波が北海道より牡鹿半島にいたる海岸に襲来し、死者は青森 343、宮城 3452、北海道6、岩手 18158。家屋流失全半壊1万以上、船の被害約7千。波高は、吉浜 24.4m、綾里 38.2m、田老 14.6m など。津波はハワイやカリフォルニアに達した。Mは津波を考慮したもの。[4]
16	1897 2. 20	明治 30	仙 台 沖	38. 1° 141. 9°	M7. 4	岩手・山形・宮城・福島で小規模の被害。一ノ関で家屋破損 72 など [0]
17	1897 8. 5	明治 30	仙 台 沖	38. 3° 143. 3°	M7. 7	津波により三陸沿岸に小被害。津波の高さは盛町で 3m、釜石で 1.2m [1]

18	1898 4.23	明治 31	宮城県沖	38.6° 142.0°	M7.2	岩手・宮城・福島・青森の各県で小被害。小津波があった。従来、岩手県沖とされていたもの。[-1]
19	1900 5.12	明治 33	宮城県北部	38.7° 141.1°	M7.0	遠田郡で最も激しく、県全体で死傷 17、家屋全壊 44、半壊 48、破損 1474。
20	1933 3.3	昭和 8	三陸沖	39.2° 144.5°	M8.1	「三陸地震津波」震害は少なかった。津波が太平洋岸を襲い、三陸沿岸で被害は甚大。死・不明 3064、家屋流失 4034、倒壊 1817、浸水 4018。波高は綾里湾で 28.7m にも達した。日本海溝付近で発生した巨大な正断層型地震と考えられている。[3]
21	1936 11.3	昭和 11	金華山沖	38.2° 142.1°	M7.5	福島・宮城両県で非住家全壊3、その他の小被害。小津波があった [-1]
22	1956 9.30	昭和 31	宮城県南部	38.0° 140.6°	M6.0	白石付近で死1、非住家倒壊3、その他小被害があった。
23	1962 4.30	昭和 37	宮城県北部	38.7° 141.1°	M6.5	「宮城県北部地震」瀬峯付近を中心とする径 40 km の範囲に被害が集中した。死3、住家全壊 340、半壊 1114、橋梁・道路・鉄道に被害が多かった。
24	1978 6.12	昭和 53	宮城県沖	38.2° 142.2°	M7.4	「1978 年宮城県沖地震」被害は宮城県に多く、全体で死 28、傷 1325、住家全壊 1183、半壊 5574、道路損壊 888、山崖崩れ 529、新興開発地に被害が集中した。[-1]
25	2003 5.26	平成 15	宮城県沖	38.8° 141.7°	M7.1	深さ約 70km のスラブ内地震、震央の位置から三陸南地震とも呼ばれる。傷 174、住家全壊 2、半壊 21、震源が深いため次の地震に比べ被害は少ない。
26	2003 7.26	平成 15	宮城県北部	38.4° 141.2°	M6.4	陸域の地殻内地震。同日に大きな前震 M5.6 と余震 M5.5 も起って連続地震とよばれた。M6 級だが浅く、震源域に局所的に大きな被害がでた。傷 677、住家全壊 1276、半壊 3809、3ヶ所で震度 6 強を観測した。
27	2005 8.16	平成 17	宮城県沖	38.1° 142.3°	M7.2	プレート境界型の地震。宮城県を中心に、負傷者 100 名、住家全壊 1 棟、一部破損 984 棟などの被害が報告されている。石巻市鮎川で 0.1m の津波を観測。地震調査委員会は「この地震は宮城県沖地震の想定震源域の一部が破壊されたものの、地震規模が小さいことなどから、想定している宮城県沖地震ではないと考えられる」と評価している。
28	2008 6.14	平成 20	岩手県 内陸南部	39° 01.7' 140° 52.8'	M7.2	「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震」逆断層型地殻内地震。M7.2(最大震度 6 強)を記録。死者 17 人、行方不明者 6 人、負傷者 426 人、住家全壊 30 棟、半壊 146 棟など。
29	2011 3.11	平成 23	三陸沖	38° 06.2' 142° 51.6'	M9.0	「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」逆断層型プレート間地震。マグニチュードは国内観測史上最大規模の M9.0(最大震度 7)、地震に伴う津波の高さは、最大で 9.3m 以上を記録。死者 19,765 人、行方不明者 2,553 人、負傷者 6,242 人、住家全壊 122,039 棟、半壊 283,698 棟、一部損壊 750,020 棟(令和 5 年 3 月 9 日現在)など、太平洋沿岸部を中心に甚大な被害をもたらした。
30	2021 2.13	令和 3 年	福島県沖	37° 43.7' 141° 41.9'	M7.3	逆断層型、太平洋プレート内部で発生。死者 3 人、負傷者 187 人、住家全壊 144 棟、半壊 3,070 棟、一部破損 35,361 棟など(令和 4 年 11 月 18 日現在)。仙台港で観測した津波の最大波は、0.1m。
31	2022 3.16	令和 4 年	福島県沖	37° 41.8' 141° 37.3'	M7.4	逆断層型、太平洋プレート内部で発生。死者 4 人、負傷者 252 人、住家全壊 224 棟、半壊 4,630 棟、一部破損 52,388 棟など(令和 5 年 3 月 24 日現在)。仙台港で観測した津波の最大波は、0.2m。

- 注1 最新日本被害地震総覧(東京大学出版会：宇佐美龍夫)より抜粋(仙台市域及びその近郊に被害を与えたもの及び被害を与えたと推定されるもの)。28以降は気象庁資料を編集。
- 注2 規模欄 Mはマグニチュード、()書はマグニチュードが幅をもって与えられている場合または資料が不十分な場合
- 注3 被害摘要欄 記事の最後の [] 書は今村・飯田による津波の規模

最大津波被害海岸での波高	50cm 以下 (無被害) :	- 1
	1m 前後 :	0
	2m 前後 :	1
	4～ 6m 程度 :	2
	10～20m 程度 :	3
	最大 30m 以上 :	4

仙台市の気象概況

1 月別の気温・相対湿度・平均風速（平年値）

年・月	気温（℃）			相対湿度 （%）	平均風速 （m/s）
	平均	最高	最低		
1月	2.0	5.6	-1.3	66	3.6
2月	2.4	6.5	-1.1	64	3.7
3月	5.5	10.0	1.4	61	3.8
4月	10.7	15.5	6.3	63	3.6
5月	15.6	20.2	11.7	70	3.2
6月	19.2	23.1	16.1	79	2.8
7月	22.9	26.6	20.2	83	2.5
8月	24.4	28.2	21.6	81	2.6
9月	21.2	25.0	18.0	78	2.9
10月	15.7	19.8	11.9	72	3.1
11月	9.8	14.1	5.6	68	3.2
12月	4.5	8.3	0.9	68	3.4
年	12.8	16.9	9.3	71	3.2

2 月別の風速（極値）

年・月	日最大風速			日最大瞬間風速		
	風速（m/s）	風向	観測した日	風速（m/s）	風向	観測した日
1月	19.9	西北西	1996. 1. 4	33.3	西南西	2002. 1. 5
2月	20.6	西北西	1997. 2. 26	35.7	西北西	1994. 2. 21
3月	24.0	西北西	1997. 3. 11	41.2	西北西	1997. 3. 11
4月	21.2	西北西	1954. 4. 19	35.9	西北西	2005. 4. 8
5月	19.9	西	1956. 5. 6	28.6	西北西	1986. 5. 25
6月	15.7	南	1984. 6. 9	25.5	南	2004. 6. 21
7月	16.8	北西	1965. 7. 1	28.1	西北西	1985. 7. 1
8月	18.9	南南東	1982. 8. 2	29.3	南南東	1982. 8. 2
9月	21.1	南東	1994. 9. 30	33.9	南東	1998. 9. 16
10月	23.0	南南東	2018. 10. 1	37.0	南東	2018. 10. 1
11月	20.6	西北西	1995. 11. 8	38.7	西北西	1987. 11. 24
12月	21.7	西南西	1957. 12. 13	34.3	西北西	1983. 12. 1
年	24.0	西北西	1997. 3. 11	41.2	西北西	1997. 3. 11

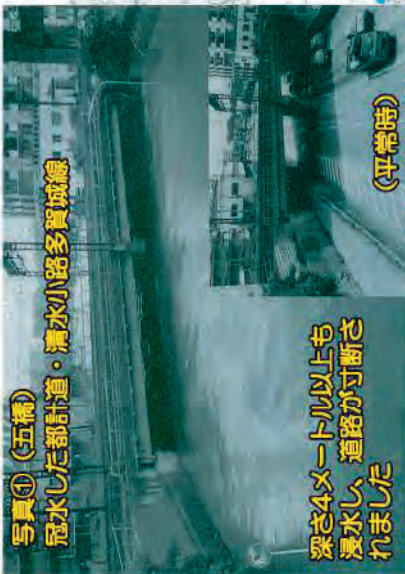
出典：仙台管区気象台

平年値は、平成3（1991）年～令和2（2020）年の30年間の平均値。

月別の風速（極値）は、日最大風速が大正15（1926）年10月～令和4（2022）年3月、

日最大瞬間風速が昭和12（1937）年1月～令和5（2023）年3月の記録による。

過去の「内水」による水害(昭和61年台風第10号8・5豪雨のようす)



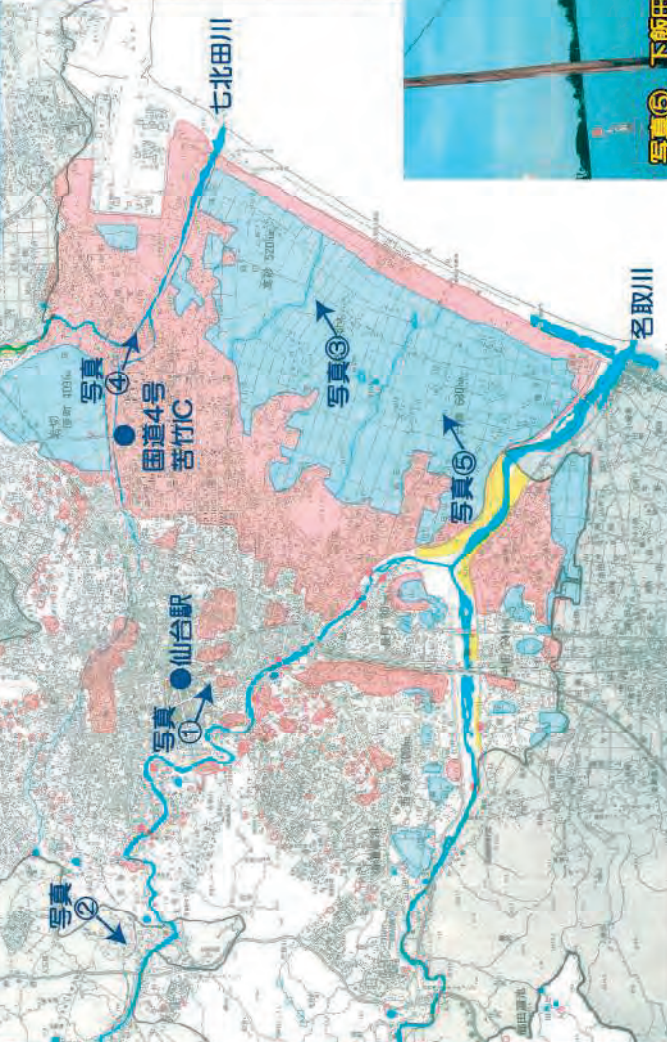
内水とは...
街などに降った雨は、下水道などをとおって川に排水されます。

河川からの溢水や堤防が壊れることによる洪水とは別に、下水道などが溢れてしまうことがあります。このような現象を内水氾濫と言います。



昭和61年被害地図の見方

宅地が冠水
農地が冠水
河川敷が冠水
崖崩れ発生箇所
道路損壊箇所
橋梁損壊箇所
河川水路損壊箇所
河川公園区損壊箇所
排水機場被災箇所
農業排水路損壊箇所
水道施設被害箇所



近年においては、昭和61年、平成2年、平成6年に、台風などの集中豪雨により、**内水**による大規模な水害が発生しています。
昭和61年の台風第10号は、総雨量は402ミリ、**1時間最大雨量は40ミリ**の激しい雨を記録しています。
上の地図や写真は、昭和61年の台風第10号のときの浸水被害状況を表しています。

仙台市災害多言語支援センターとは？

大規模災害発生時に仙台市が設置し、(公財)仙台観光国際協会 (SentTIA) が運営します。外国人住民や外国人旅行者など、言葉や習慣の違いから情報を入手しにくく、支援を受けられない恐れのある人たちに支援するため、必要な情報を収集し、外国語で提供し、相談を受けます。

What is the Sendai Disaster Multilingual Support Center?

The Disaster Multilingual Support Center is opened in the event of a large-scale disaster and is operated by SentTIA. The center is opened to support those who may not be able to gain support in the event of a disaster due to differences in language, customs or information being hard to obtain. Staff collect together necessary information, offer it in foreign languages and provide consultation services.

仙台市災害多言語支援中心是什么机构？

当巨大灾害发生时，该中心将由仙台市政府设立、仙台观光国际协会 (SentTIA) 进行运营。由于外国籍市民及外国游客等，因语言或习惯差异，难以获得相关信息，有可能得不到援助，为此，为了支援外国人，该中心将收集外国人所需要的的相关信息，用外语提供并接受相关咨询。

센다이시 재해 다언어 지원센터란?

대규모 재해 발생시 센다이시가 설치하고, (공재) 센다이 관광 국제협회 (SentTIA)가 운영합니다. 외국인 주민이나 외국인 여행객 등, 언어나 습관의 차이로 정보를 입수하기 곤란하거나 지원을 받지 못할 가능성이 있는 분들을 지원하기 위하여 필요로 하는 정보를 수집하고, 외국어로 제공하며, 상담을 실시하고 있습니다.



所在地:

青葉区青葉山 仙台国際センター内
Aoba-ku, Aobayama, Sendai City

Address:

Sendai International Center, Aobayama, Aoba-ku, Sendai City

所在地:

仙台市青葉区青葉山 仙台国際中心内

소재지:

센다이시 아오바구 아오바야마 센다이 국제센터 내

公益財団法人 仙台観光国際協会 (SentTIA)

Sendai Tourism, Convention and International Association

公益財団法人 仙台観光国際協会

공익재단법인 센다이관광국제협회

仙台市災害多言語支援センター

(仙台国際センター内)

※状況により他の場所に設置される場合もあります。大規模災害時に設置されます

Sendai Disaster Multilingual Support Center

(Sendai International Center)

※ The venue may change depending on circumstances. The Sendai Disaster Multilingual Support Center will be set up during a large scale disaster.

仙台市災害多语言支援中心

(仙台国际中心内)

※ 根据情况，有可能会设立在其他场所。发生大规模灾害时设立

센다이시 재해 다언어 지원 센터

(센다이 국제 센터내)

※ 상황에 따라 다른 장소에 설치되는 경우도 있습니다。대규모 재해시에 설치됩니다

TEL: 022-265-2471

022-224-1919

本協会は仙台多文化共生センターとして相談業務や情報提供を行っています。The Support Center usually operates as the Sendai Multicultural Center and offers information and consultations.

平时作为仙台多文化共生中心提供各种生活讯息及相关咨询服务。평상시에는 센다이 다문화공생센터로서 상담업무 및 정보제공을 실시합니다.

FAX: 022-265-2472

<http://int.sentia-sendai.jp/saigai/>

活動内容

情報提供: 仙台市や関係機関からの情報を翻訳し、インターネットやラジオで広報します。
相談対応: 電話やメールなどで外国語の相談を受けます。
避難所巡回: 状況に応じて、外国人の多い避難所などをまわり、情報の収集と提供をします。

Center Activities

Information in foreign languages: Providing information from Sendai City and other related organizations over the internet and radio broadcasts.
Foreign language support desk: Answering questions and providing information via phone and e-mail.
Visiting refuge centers: Depending on the circumstances, visiting refuge centers with high numbers of non-Japanese residents to gather and provide information.

活动内容

用外文提供信息: 将仙台市及有关机关发布的信息翻译成中文, 通过因特网或收音机通知大家。
提供外语咨询服务: 可用外语接受电话或电子邮件的咨询服务。
巡回避难所: 根据情况, 巡回外国人多的避难所等场所, 收集并提供相关信息。

활동 내용

외국어에 의한 정보 제공: 센다이시나 관계 기관으로부터의 정보를 번역하여, 인터넷이나 라디오로 알려 드립니다.
외국어에 의한 상담: 전화나 메일 등으로 외국어 상담에 대응하고 있습니다.
피난소 순회: 상황에 따라서 외국인이 많은 피난소 등을 돌며, 정보를 수집하고, 또한 제공해 드립니다.

避難する方へ

「避難所とは」
大きな災害で自分の家にいられないときに行く場所です(小学校、中学校の体育館など)。毛布や食糧品があります。誰でも入れることができます。避難所は集まった人で運営します。できるところを手伝いましょう。

To evacuees.

What is an evacuation center?
An evacuation center is a place that you can go to if you can no longer live in your own home after a large disaster (e.g. gymnasiums at primary and middle schools). They also stock blankets and food, and anyone is free to enter. Centers are operated by the people who gather there, and it is best to help in any way you can while there.

想进行避难的位置

「避难所」
当巨大灾害发生时, 自己居住的房屋不能使用时, 可进行避难的场所(小学、中学的体育馆等)。避难所里备有毛毯和食物。任何人都可利用的场所。避难所是由聚集在此的人进行运营的。希望您能提供力所能及的协助。

피난하시는 분들에게

「피난소란」
큰 재해로 인해 자기 집에 머무를 수 없을 때 가는 장소입니다(초등학교, 중학교, 체육관 등). 담요나 먹을 것이 준비되어 있습니다. 누구나 이용할 수 있습니다. 피난소는 모인 사람들이 협력하여 운영합니다. 자신이 할 수 있는 일이 있을 경우에는 도울 수 있도록 합시다.

避難所を運営する方へ

指定避難所には、避難所内の様々な情報が外国語で表示してある「多言語表示シート」が備えてあります。ひらがなでも記載していて、子どもにも情報がわかりやすく伝わるので、活用してください。

To those operating evacuation centers.

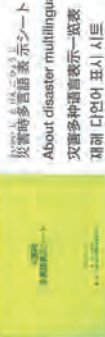
At designated evacuation centers, there are multilingual support cards prepared that display various pieces of information in foreign languages. They are also written in hiragana so that young children can also understand them. Please make use of them when you need to.

进行避难所运营管理的各位

在指定避难所, 备有有用外文表示的可提供各种信息的「多种语言表示一览表」, 因有日语假名表示, 所以即使儿童也可以看得懂信息的内容, 欢迎大家广为利用。

피난소를 운영하시는 분들께

지정 피난소에는 피난소내의 여러가지 정보가 외국어로 표기되어 있는 「다언어 표시 시트」가 마련되어 있습니다. 히라가나로도 표기되어 있어 아이들에게도 정보가 알기 쉽습니다. 꼭 활용해 주시기 바랍니다.



情報は次の方法で広報します

いつもはイベントや生活情報をお知らせしています

Information will be provided through the following methods:

(Information about events and living in Sendai is normally provided through these mediums)

我们将用以下各种方式为您发布有关信息

(平时则提供各种活动的信息以及生活信息)

정보는 다음과 같은 방법으로 알려 드립니다

(평상시에는 이벤트 정보나 생활 정보 등을 알려 드리고 있습니다.)



それぞれの情報は(公財)仙台観光国際協会ホームページで確認してください。
All information provided can be checked on the Sentia website.
关于方面的事情, 请查阅(公財)仙台観光国際協会の网页。
 각각의 정보는(공재)센다이 관광 국제협회의 홈페이지에서 확인하시기 바랍니다.

재해에 대비하기 위하여

- ガイドブック 「地震から身を守るためのアドバイス」
- Guidebook Advice for Protecting Yourself
- 相簿手冊 关于发生地震时如何做好自我保护的建议
- 가이드북 지진으로부터 자기자신을 보호하기 위한 어드바이스



Center Activities

災害に備えるための資料

- 多言語防災ビデオ Disaster prevention video
- 多种语言防灾录像 灾해 방지 비디오
- YouTube

